



### 令和3年の九州北部地方（山口県を含む）の天候（確定版）

- 春は3月を中心に記録的な高温となりました。
- 8月は記録的な多雨となりました。
- 年平均気温はかなり高くなり、福岡や佐世保などで最も高温となりました。

令和3年の天候の特徴は以下のとおりです。

- 春は、3月を中心に北からの寒気の流れ込みが弱かったことや暖かい空気に覆われたことから、統計開始（1946年）以降、気温が最も高くなりました。
- 8月は、中旬を中心に本州付近に前線が停滞し、中国大陸から流れ込む湿った空気と太平洋高気圧の縁辺を回る湿った空気が日本付近に合流しやすい状態が続きました。そのため、九州北部地方では記録的な多雨となり、特に、大牟田（福岡県）や嬉野（佐賀県）、菊池（熊本県）などでは、8月としては平年の5倍を超えるなど統計開始以降、降水量が最も多くなりました。
- 年平均気温はかなり高くなり、福岡や<sup>いづはら</sup>厳原（長崎県）及び佐世保（長崎県）では年平均気温の高い方からの1位の値を更新したほか、下関（山口県）や佐賀及び平戸（長崎県）では1位タイの値を記録しました。

注）本資料は、12月31日までの観測データをもとにまとめたものです。  
なお、概況、統計値等は別紙をご覧ください。

問合せ先：福岡管区気象台気象防災部

観測値について：防災調査課（<sup>へびしま</sup>蛇嶋） 092-725-3614

要因について：地球環境・海洋課（川口）092-725-3613

## 《季節毎の概況》

### 冬（2020年12月～2021年2月）は、前半は低温、後半は高温・多照

12月から1月前半は強い寒気が流れ込んだ影響で低温となったが、後半は寒気の南下が弱かったことや暖かい空気に覆われたため高温となったことから、気温の変動が大きかった。特に2月は移動性高気圧に覆われて晴れた日が多かったため多照となった（図1）（図3）（表1）。

### 春（3月～5月）は、3月を中心に記録的な高温となったほか、統計開始以降、最も早く梅雨入りした。

3月は寒気の流れ込みがほとんどなかったことや、南からの暖かい空気が流れ込みやすかったことから、1946年の統計開始以降、地域平均気温の平年差が従来の高温の記録だった2002年の+1.6℃を大幅に塗り替える+2.7℃と記録的な高温となった。また、春としても1位タイの記録となった。5月は梅雨前線が平年より北上したため九州付近に停滞し、1951年の統計開始以降、最も早い5月11日ごろに梅雨入りするなど、多雨・寡照となった（図1）～（図3）（表1）（表2）（表4）。

### 夏（6月～8月）は、8月は、本州付近に停滞した前線などの影響で、記録的な多雨。

6月は太平洋高気圧の張り出しが例年より弱かったため、梅雨前線は日本の南海上に停滞しやすかった。そのため、梅雨前線の影響を受けにくかったことや高気圧に覆われやすかったことから晴れた日が多かった。7月も梅雨前線や湿った空気の影響を受けにくかったことから少雨となった。反対に8月は、本州付近に停滞した前線などの影響により雲仙岳や熊本などでは、平年の5倍を超えるなど、記録的な大雨となった（図2）（表1）。

### 秋（9月～11月）は、高気圧に覆われやすかったため少雨・多照。

9月後半から10月にかけては高気圧に覆われやすかったため、晴れた日が多くなったことから多照となった。特に10月は、高気圧に覆われて晴れた日が多かったことから、かなりの少雨となったほか、多照となった（図2）（図3）（表1）。

### 12月は、高気圧に覆われやすかったため少雨・多照。

気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨または雪の日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かったことから、少雨・多照となった（図2）（図3）（表1）。

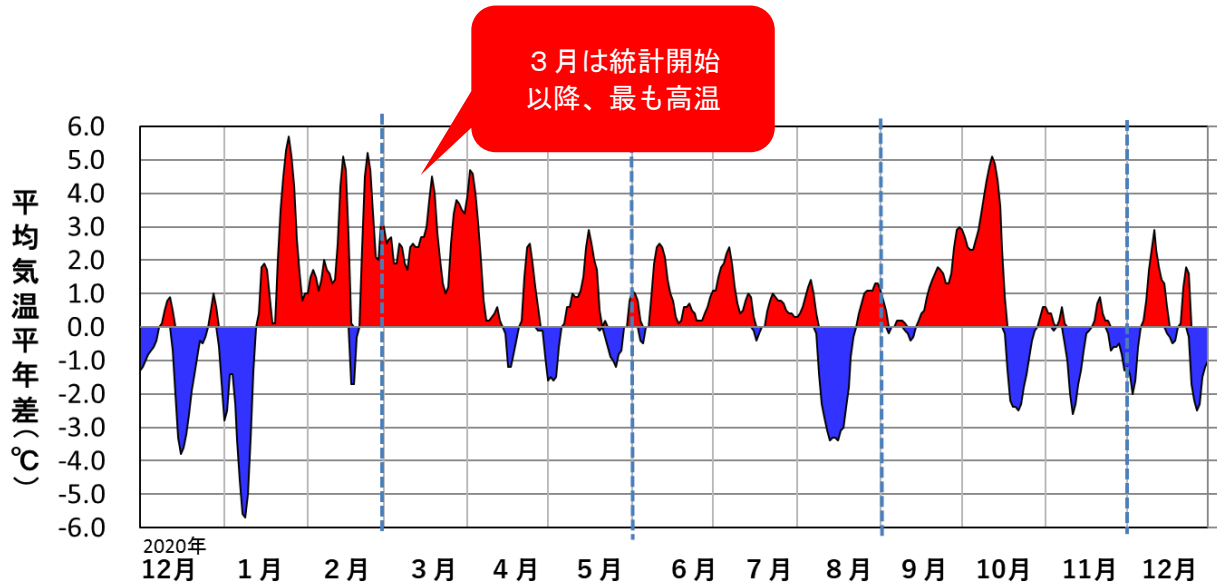


図1 九州北部地方（山口県を含む）の平均気温の地域平均平年差（5日移動平均）

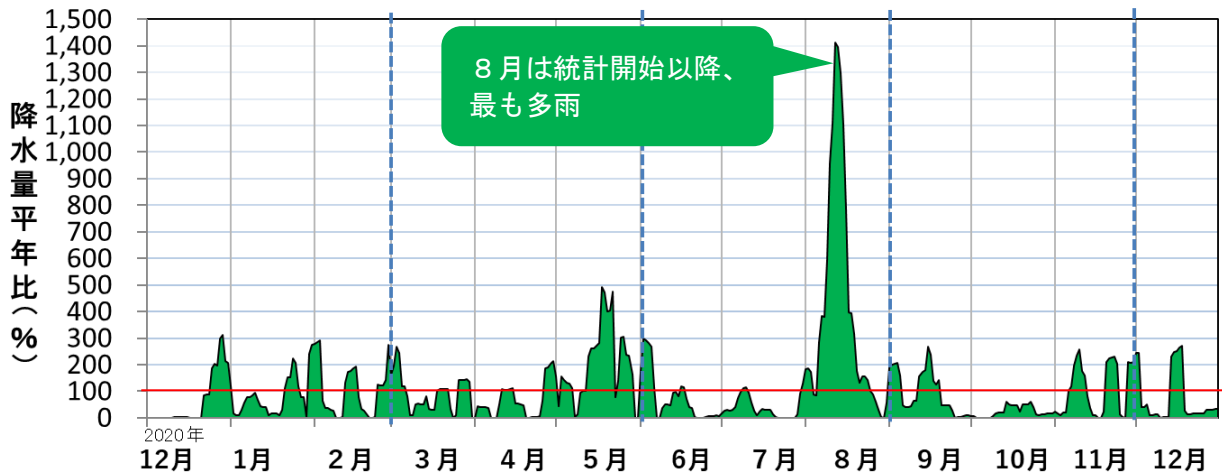


図2 九州北部地方（山口県を含む）の降水量の地域平均平年比（5日移動平均）

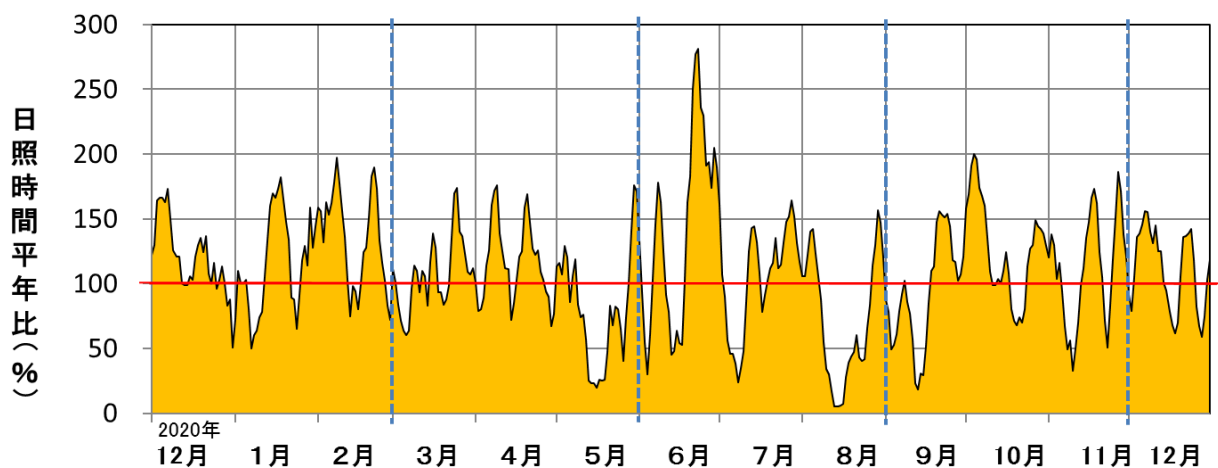


図3 九州北部地方（山口県を含む）の日照時間の地域平均平年比（5日移動平均）

表1 九州北部地方（山口県を含む）の平均気温・降水量・日照時間の地域平均平年差（比）

	平均気温平年差（℃）	降水量平年比（％）	日照時間平年比（％）
2020年12月	低い（-0.9）	少ない（51）	多い（123）
2021年1月	平年並（+0.1）	少ない（63）	多い（116）
2月	かなり高い（+2.2）	平年並（105）	かなり多い（131）
冬（12月～2月）※	高い（+0.5）	少ない（75）	かなり多い（124）
3月	かなり高い（+2.7）	平年並（99）	平年並（108）
4月	高い（+1.0）	少ない（66）	多い（116）
5月	平年並（+0.2）	かなり多い（194）	少ない（80）
春（3月～5月）	かなり高い（+1.3）	多い（124）	平年並（100）
6月	かなり高い（+0.8）	かなり少ない（51）	多い（129）
7月	高い（+0.8）	少ない（37）	平年並（109）
8月	低い（-0.7）	かなり多い（396）	少ない（74）
夏（6月～8月）	平年並（+0.3）	多い（129）	平年並（100）
9月	高い（+0.9）	平年並（103）	少ない（89）
10月	高い（+1.1）	かなり少ない（23）	多い（125）
11月	平年並（-0.4）	平年並（119）	平年並（111）
秋（9月～11月）	高い（+0.6）	少ない（86）	多い（109）
12月	平年並（0.0）	少ない（55）	多い（108）
年（1月1日～12月31日）	かなり高い（+0.7）	多い（113）	多い（106）

平年値は1991～2020年の平均

※冬は2020年12月から2021年2月まで

地域平均平年差（比）は、いつもの年（平年）と比べてどのくらい暖かい（多い）・寒い（少ない）を地域全体でみるもので、九州北部地方（山口県を含む）の統計期間が50年以上ある観測所（表3参照）における平年差（比）を平均して算出。朱書は統計開始（1946年）以降の極値を示す。

表2 季節（3か月）の極値（九州北部地方平均）

季節	要素	値（単位）	これまでの極値（単位）（年）
春（3月～5月）	平均気温の地域平均平年差の高い方から	+1.3（℃）＝	+1.3（℃） 1998

平年値は1991～2020年の平均 ※過去の記録とのタイは「＝」で表す。

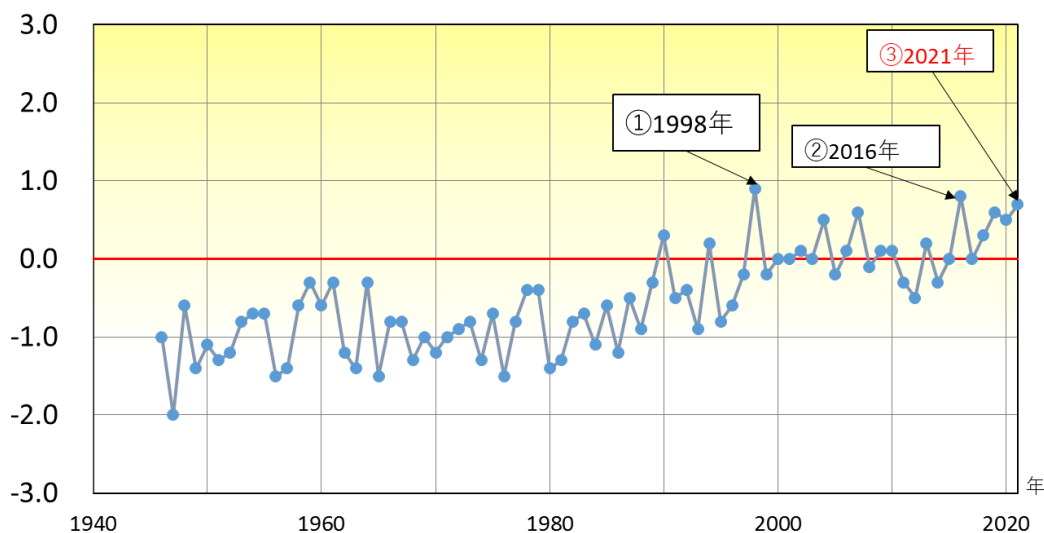


図4 九州北部地方（山口県を含む）の年平均気温の地域平均平年差（1946年～2021年）  
（西暦の前の丸付き数字は統計期間内の順位を示す）

表3 各地点の令和3年の年平均気温・年降水量・年間日照時間

地点名	平均気温 (°C)	平年差 (°C)	降水量 (mm)	平年比 (%)	日照時間 (h)	平年比 (%)
山口	16.4	+0.8	2132.5	111	1963.6	105
下関	17.7 =	+0.7	1851.5	108	2010.6	107
萩	16.5	+0.7	1946.5	115	1909.4	110
福岡	18.2	+0.9	1979.0	117	2043.1	108
飯塚	16.7	+0.7	2203.5	122	2006.1	110
佐賀	17.9 =	+1.0	2480.5	127	2111.3	107
長崎	18.1	+0.7	2203.5	116	1920.8	103
巖原	16.9	+0.9	2421.0	105	1918.7	103
平戸	17.1 =	+0.8	2712.5	123	1954.6	110
佐世保	18.1	+0.9	2223.0	112	2054.7	107
雲仙岳	13.6	+0.6	3722.5] (統計月数: 11)	127] (統計月数: 11)	1472.2	102
福江	17.6	+0.6	2782.5	119	1858.4	106
熊本	17.9	+0.7	2347.5	117	2113.2	106
人吉	16.4	+0.6	2706.0	107	1835.0	101
牛深	18.8	+0.6	2512.5	119	2056.5	105
大分	17.4	+0.6	1480.5	86	2005.2	101
日田	16.6	+0.8	1875.5	100	1970.1	109

平年値は1991～2020年の平均

- (注1) これらは1月1日から12月31日までの観測値を使った集計結果である。
- (注2) 朱書は年間の極値を更新したことを、過去の記録とのタイは「=」で表す。
- (注3) 値の横に]がある場合は、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計月数を参考にするとともに、階級についても値と同様の品質であることに留意して使用されたい。
- (注4) 平年差(比)は同期間の日別平年値を平均・合計したのに対する差(比)である。

### ＜九州北部地方(山口県を含む)の梅雨の記録＞

梅雨入りは平年よりかなり早く統計開始(1951年)以降、最も早かった。梅雨明けは平年より6日早かった(表4)。梅雨の時期の降水量(6月と7月の降水量の合計)の地域平均平年比は44%とかなり少なかった(表5)。

表4 令和3(2021)年の梅雨入り・梅雨明け

地域	梅雨入り	平年の梅雨入り	梅雨明け	平年の梅雨明け
九州北部地方	5月11日ごろ(-*) (24日早い)	6月4日ごろ	7月13日ごろ(-) (6日早い)	7月19日ごろ

- (注5) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「〇〇日ごろ」と表現した。
- (注6) 記号の意味は(-\*): かなり早い、(-): 早い

表5 九州北部地方（山口県を含む）の主な地点の梅雨の時期（6月と7月）の降水量

	地点名	降水量 (mm)	平年比 (%)	平年値 (mm)
九州北部地方 (平年比 44%)	下 関	268.5	48	563.0
	福 岡	168.5	31	548.7
	佐 賀	256.0	37	693.8
	長 崎	236.5	38	628.6
	熊 本	353.0	42	835.3
	大 分	220.0	38	574.9

平年値は1991～2020年の平均

(注7) 九州北部地方（山口県を含む）の統計期間が50年以上ある観測所を対象として、梅雨の時期（6～7月）の地域平均降水量を平年比（%）で示した。

### ＜九州北部地方（山口県を含む）に接近・上陸した台風＞（注）

令和3（2021）年の台風発生数は、22個（平年25.1個）であった（表6）。

九州北部地方への台風接近数（注8）は、台風第9号、第12号及び第14号の3個で、そのうち1個は9月17日19時前に福岡県福津市付近に上陸した台風第14号であった（表7）（表8）（図5）。

表6 台風の発生数（12月27日まで）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
2021年		1		1	1	2	3	4	4	4	1	1	22
平年値	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1

表7 九州北部地方（山口県を含む）への台風の接近数（12月27日まで）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
2021年								2	1				3
平年値				0.0	0.1	0.3	0.8	1.1	1.1	0.4			3.8

表8 九州への台風のの上陸数（12月27日まで）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
2021年								1	1				2

(注8) 本表は台風の発生月別にとりまとめたもの。台風によっては発生月と接近・上陸月が違う場合があるが、ここでは示さない。

(注9) 「九州北部地方への接近」は台風の中心が九州北部地方の統計期間が50年以上ある地点から300km以内に入った場合を指す。

(注10) 「九州への上陸」は台風の中心が九州本土の海岸線に達した場合を指す。

(注11) 値が空欄となっている月は、平年値を求める統計期間内に該当する台風が1例もなかったことを示す。

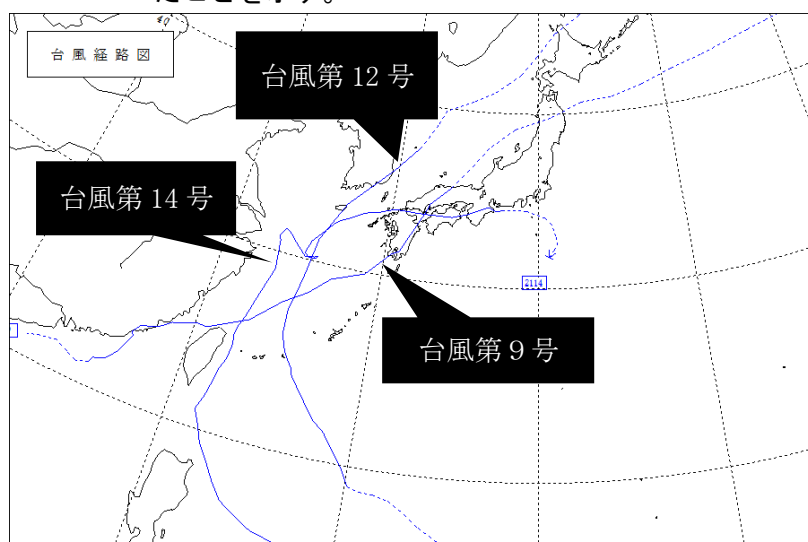


図5 九州北部地方（山口県を含む）に接近した台風経路図  
実線は台風、点線は熱帯低気圧または温帯低気圧を示す